

大手ゲーム開発会社、 規模を10倍に拡大すると同時に、 数百万ドルの節約に成功

業種

ソフトウェアテクノロジー

Sysdigのソリューション

Sysdig Monitor

インフラストラクチャー

Google Cloud Platform (GCP)

オーケストレーション

Google Kubernetes Engine (GKE)

Game
Development
Company

このテクノロジー企業のプラットフォームを使って作られたゲームは、携帯電話や家庭用ゲーム機からデスクトップコンピューターに至るまでのあらゆるデバイスを通じて、世界中のゲーマーに利用されており、毎月数十億回もダウンロードされています。同社にとっての重要な収益源は、これらのゲーマー向けに広告を配信するオークションプラットフォームです。このオークションプラットフォームは「ビッグ3」のクラウドプロバイダーのうちの1社を通じてホスティングされており、同プラットフォームを利用することで、広告主は個々の広告インプレッションごとに「競り」を行えます。

課題

- 予想外に高いカスタムメトリクスの費用
- どのようなカスタムメトリクスが収集されているのか可視化されていない
- メトリクスが破棄される
- Datadogの提供するサポートと対応に不満

Sysdigのビジネスインパクト

- カスタムメトリクスのコストを75%削減
- カスタムメトリクスのフットプリントを10倍に拡大し、パフォーマンスへの影響がない
- Datadogからの移行が容易で、導入効果や価値を測る期間（Time to Value）を短縮
- 高い対応力と高度な知識を備えたチームがサポートを提供

課題

急増するカスタムメトリクスのコスト

オークションプラットフォームを担当する開発チームは、オークションを処理し広告を提供するアプリケーションに組み込まれているホストやコンテナのメトリクスに大きく依存しています。同社は、これらのメトリクスをDatadogに送信することで、ダッシュボードとアラートを使用してアプリケーションの健全性とオークションビジネスのパフォーマンスの双方を監視していました。Datadogや一般的な監視ツールでは、カスタムメトリクスの料金は量単位で課金されます。オークションプラットフォームのビジネスが拡大するにつれ、プラットフォームが生成するカスタムメトリクスの量

“規模が大きくなるにつれ、Datadogを使い続けることが難しくなってきました。Datadogは、私たちが送信できる内容に制限を加え、レポートやメトリクスをブロックするようになりました。その結果、メトリクスが消えてしまうこともありました。私たちは、そのようなメトリクスを必要とする時まで、そのことを知らなかったのです。そして、それを知った時には、すでに手遅れでした。”

リードエンジニア
ゲーム開発会社

は、急速に増加しました。その結果、Datadogによるカスタムメトリクスの監視コストは非常に高額となり、年間では数百万ドルへと高騰し、1年以内に400%の増加が予測されるほどになりました。このような飛躍的なコストの高騰が、同社にとって最初の危険信号でした。

スケーリングの問題

チームがDatadogに関して直面していた2つ目の課題は、スケーラビリティでした。Datadogは、オークションプラットフォームが送信する大量のカスタムメトリクスを処理できなかったのです。このため、チームは、ピーク時にメトリクスを破棄することとなり、その結果、可視性のギャップが頻繁に引き起されることとなりました。ほとんどの監視システムでは、取り込まれるカスタムメトリクスの数が一定量を超えると、その数を抑制する傾向があります。

同社のリードエンジニアは、次のように述べています。「規模が大きくなるにつれ、Datadogを使い続けることが難しくなってきました。Datadogは、私たちが送信できる内容に制限を加え、レポートやメトリクスをブロックするようになりました。その結果、メトリクスが消えてしまうこともありました。私たちは、そのようなメトリクスを必要とする時まで、そのことを知らなかったのです。そして、それを知った時には、すでに手遅れでした」。

このように、監視コストの高騰とビジネスクリティカルなメトリクスに関する可視性の喪失という2つの課題を抱えていたため、同社では、代わりとなる監視ソリューションを探すことになりました。

ソリューション

改善の基準

代わりとなるソリューションを評価することになったチームは、代替ソリューションが満たすべき4つの重要な基準を特定しました。それは次の通りです。

- カスタムメトリクスのコストを削減する
- 自社の現在のメトリクススケールと、予測されるメトリクススケールの両方を扱える
- 実装とDatadogからの移行が容易である
- より迅速で透明性の高いサポートを提供している

複数のSaaSベースの監視ツールを調査した結果、Sysdig Monitorが他のどの製品よりも上記の要件を満たしていたため、[Sysdig Monitor](#)への乗り換えを決定しました。Sysdig Monitorのコア機能を使うことで、クラウドネイティブなワークロードの問題を監視し、トラブルシューティングを行えるようになります。また、カスタムメトリクス監視の観点からは、Sysdigを使うと、StatsD、Java Management Extensions (JMX)、Prometheus、Open Telemetryなど、あらゆる形式のカスタムメトリクスを、極めて大量かつ低コストで取り込むことができます。これらは、同社にとって重要な要件となるものです。

カスタムメトリクスのコストを75%以上削減

チームはすぐに、Sysdigのカスタムメトリクスの単価が、Datadogやその他のSaaS型監視ツールよりも数倍低いことを発見しました。今後3年間に予測されるカスタムメトリクスの量を前提として、カスタムメトリクス監視において75%以上のコスト削減を見込めると計算しました。これは、同社の予算に即座にプラスの影響を与え、数百万ドルを節約する大きな収穫となりました。

10倍以上の量のカスタムメトリクスを処理

Datadogとは異なり、Sysdigは受信するメトリクスに制限がなく、運用チームが監視に必要となるあらゆるメトリクスをすべて確保できるように、リニアなスケーリングを実現します。この結果、開発チームが必要とするメトリクスを送信できるようになります。さらに、Sysdigのダッシュボード機能を使うと、オークションプラットフォームを微調整することにより広告収入を最大化できます。

Datadogからの移行が容易

同社は、オープンソース技術に基づく既存のメトリクス収集フレームワークを利用することで、混乱を最小限に抑えつつSysdig Monitorを導入することに成功しました。また、Sysdigは、数百ものDatadogダッシュボードをSysdigダッシュボードへと変換する簡単な仕組みを提供することで、導入効果や価値を測る期間を短縮しました。Sysdigは、オープンで非常に強力かつ柔軟なクエリ言語であるPrometheus Query Languageをネイティブでサポートしているため、Datadogからの移行が非常に容易であり、開発チームの迅速なオンボーディングを促進しました。

優れた透明性とサポート

新しいベンダーのビジネスケースを構築することは、多くの場合、単にコストを削減する以上のものを意味します。効果的なベンダーとのパートナーシップは、透明性、信頼性、そして応答性の上に築かれるものです。Sysdigは、移行をサポートし調整するソリューションエンジニアを専任で配置してくれました。これは、同社にとって非常に大きな違いをもたらすものでした。同社のエンジニアリング部門のバイスプレジデントは次のように述べています。「Sysdigのテクニカルサポートチームは、問題の特定に積極的であり、私たちのフィードバックに対して非常にオープンでした。当初から、私は、Sysdigのチームが私たちのニーズに応じてくれるだろうと感じていましたが、その予感が、私たちの仕事全体を通じてずっと的中していることにとても喜んでいます」。

“ Sysdigのテクニカルサポートチームは、問題の特定に積極的であり、私たちのフィードバックに対して非常にオープンでした。当初から、私は、Sysdigのチームが私たちのニーズに応じてくれるだろうと感じていましたが、その予感が、私たちの仕事全体を通じてずっと的中していることにとても喜んでいます。 ”

エンジニアリング部門バイスプレジデント
ゲーム開発会社

Sysdig Monitorについて

Sysdig Monitorは、カスタムメトリクスのコストを削減する以上のことを実現できます。Sysdig Monitorは、クラウドネイティブなワークロード向けにゼロから構築された最新のPrometheus互換の可観測性ソリューションです。Sysdig Monitorは、パブリックまたはプライベートクラウドでホスティングされているKubernetesや仮想マシンで実行されているワークロードを監視するために、多くの企業で採用されています。

Sysdig Monitorの詳細については[こちら](#)をご覧ください。また、Sysdigの無料お試し版もご利用ください。

Sysdigの詳細については、www.sysdig.jpをご覧ください。また、下記のリンクから、Sysdigの無料お試し版をお使いいただけます。

無料お試しはこちら

Sysdigについての詳細は www.sysdig.jp/

Sysdig Japan合同会社

〒107-0052 東京都港区赤坂7-9-4 赤坂Vetoro 3階

<https://sysdig.jp/company/contact-us/>

